

# 草深たまご通信

草深の卵をご利用いただきましてありがとうございます。

晩秋としては暖かい日々が続きました。天候の良い日には、公園に出かけたりレクを楽しんだり、といったあたり前だったことがまだまだ我慢を強いられています。それでも、メンバーは畑や養鶏の作業に勤しんで、季節を感じながら元気に過ごしています。

日夜みんなの命と生活を守るために働いていらっしゃる皆さん、学舎を支援していただいているすべての皆さんの、ご健康を祈ります。

## ● 10月 にわとり 70羽入荷！

5月の2期に続いて、10月15日に1期鶏舎の二ワトリの入れ替えを行いました。元の予定より半年ほど遅れましたが、まだまだしっかりと産卵していましたので、廃鶏にするのは忍びない気持ちでした。廃鶏から1週間かけて鶏舎の清掃、砂の入れ替えなどを行い、新しい入居者たちを迎えました。131日齢でやってきた70羽のボリスブラウンの雌鶏は、いつもより人馴れも早いような気がしました。1週間後より産卵が始まり、11月下旬には毎日約40～60個産んでいます。

現在は、満2歳(約720日齢)に達したころに廃鶏を計画しています。



【訂正とお詫び】  
前号で「孵化して250日ほどで草深にやってくる」とあるのはの誤りでした。正しくは「120日ほど」です。たいへん申し訳ありません。訂正いたします。

## 【シリーズ鶏卵の表示①】 初卵

以前は、入荷した若鶏の卵を“初卵”と表記して販売していたこともありましたが。鶏卵公正取引協議会に問い合わせたところ、消費者に「初めて産んだ卵だ」という誤認を与えるため表示できない、と指摘を受けました。平飼いの卵の場合、どの鶏が産んだ卵かもわかりません。そこで、私たちは「おおむね180日齢までの若鶏が産んだ卵です」と表記しています。



鶏舎内の砂の入れ替えを定期的に行っています。→



社会福祉法人印旛福祉会

いんば学舎・草深 にわとり農場班

〒270-1337 千葉県印西市草深字怖録 484-3

TEL. 0476-48-6411 FAX. 0476-48-6400

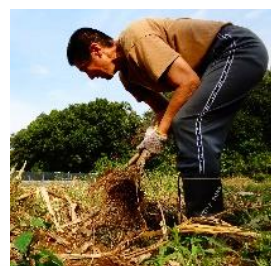
<http://inba-g.or.jp/shisetsu02.html>

第14号(不定期刊) 2021年11月24日発行



## ●デントコーン収穫しました

5月に種撒きをしたデントコーン。9月の収穫前に、台風の大風で相当数が倒れてしまいました。そこで、予定より早く収穫を行いました。収穫量は少なめでしたが、実はしっかりとできていました。



(上左)収穫 (上中)根の土落とし (上右)根運び  
(下左)実の結び・・・皮をむいた実を2本ずつ結び吊るして乾燥させます  
(下右)茎の粉碎・・・乾燥した茎を機械で粉碎し畑に撒いた後に鋤きこみます



2017年度の収穫祭でデビュー。来場された皆さんから名まえを募集しました。

草深キャラクター「そうしくん」

残念ですが、草深の収穫祭は、コロナ禍の状況に鑑みて、昨年度に引き続き、今年も地域の皆様をお招きせず内部だけで実施いたします。来年こそは感染が収束しますように・・・

## ◆ドラムの里での販売が終了します

「栄町ドラムの里龍の市庭」を運営していた成田ゆめ牧場が指定管理者を降るため、12月25日をもって閉店します。草深からも卵や野菜、陶芸作品などを出品していましたが、残念です。草深のたまごは、できるだけ閉店ぎりぎりまで販売できたらと思います。

草深のたまごは、印西市「いんば学舎・オソロク倶楽部」「ナリタヤ印旛日本医大前店」「佐倉市「マルシェかしま」」「白井市「新鮮市場マルエイ白井店」にて、販売しています。